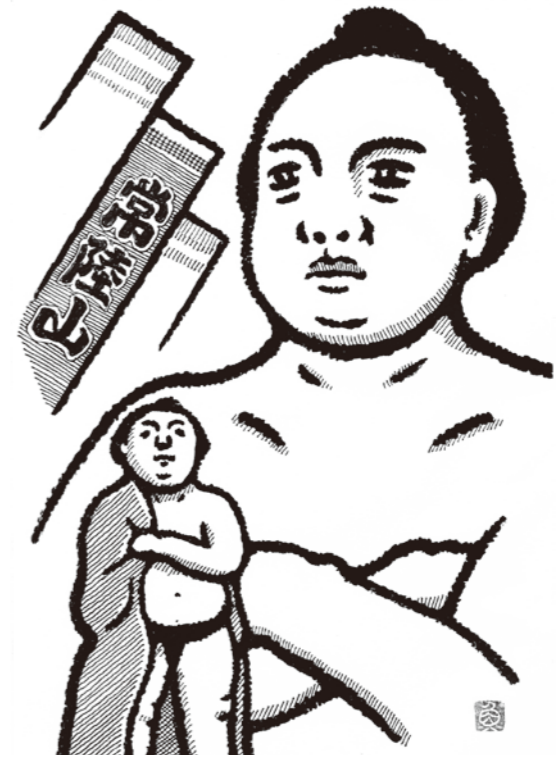


# 相撲史に輝く茨城出身力士 常陸山谷右衛門 (ひたちやまたにえもん)

水戸市城東一丁目ほか



日本の国技、相撲の発祥は古事記にまでさかのぼることができます。現在まで茨城県出身の力士が最初に登場したのは「今昔物語」や「新編常陸国誌」その名前が見える、眞髪成村という人のようです。成村は身長212センチ、体重150キロという当時としてもすごい大男だったようです。

江戸時代に入ると水戸藩でも寺社奉行の許可を得た花相撲と呼ばれた興行が行われ、本県出身では、さざ浪金兵衛、とき星三介、つきかね半兵衛、小天狗治左衛門といったユニークな名前の力士が水戸藩の庇護を受けたそうです。

そのような茨城の相撲史にさん然と輝くのは常陸山谷右衛門でしょう。明治七年、水戸藩士・市毛家に生まれた常陸山は水戸中学を三年で中退。当時親戚関係にあった渡辺治を頼って上京し、同じ水戸市出身の出羽海運右衛門に弟子入りをします。

明治二十四年に御西山というしこ名で序の口初土俵を踏み、その後、初代常陸山寅吉の引退を機に二代目・常陸山を襲名しました。その後、実力を発揮し、明治三十七年に横綱に昇り詰めました。

その間の活躍はすでに多くの書物で紹介されていますが、年寄りとなった大正三年には米国巡業を行い、水戸の金工の北川北仙が作った黄金の桜花を鞘に刻んだ日本刀一振りを持の大統領ウィルソンに贈りました。

常陸山の生誕地である水戸市城東には像が建立され、その前で横綱・白鵬の奉納土俵入りも行われました。本県出身の次の横綱誕生を期待して、常陸山ゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょうか。

〈参考文献〉「郷土史かがやく人ひとほか



【アクセス】常陸山の像は水戸市城東1丁目のほかに同市堀町の県武道館前にもあります。県外で滋賀県長浜市にも石像が建立されています。墓は水戸市酒門の酒門共同墓地や東京・谷中墓地にもあります。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

## ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>